



浜松出張所の柴田2曹がベンチプレスで全国2位入賞



自衛隊静岡地方協力本部浜松出張所（所長・有吉将人1等空尉）の広報官・柴田道郎2等空曹は、2月18日（土）と19日（日）に岡崎中央総合公園総合体育館（愛知県岡崎市）で行われた第35回全日本ベンチプレス選手権大会105キロ級に出場し、267.5キロで第2位に入賞した。

普段は自宅とジムで週4回トレーニングに励み、大会の1カ月前からは豊橋市にあるパワーリフティング専門ジムに通っていたという柴田2曹。「大会で2位争いしたのは以前世界2位になった選手だったので、競り勝って嬉しかったです。私の階級の優勝者は去年の世界チャンピオンで、非常に強いですがいつか勝ちたいと思っています」と大会の感想を語った。

柴田2曹は今回の大会が開かれた愛知県岡崎市出身。高校3年生から自宅近くのジムでウェイトトレーニングを始め、高校卒業後は航空自衛官に。小牧基地（愛知県小牧市）で勤務していた際、当時通っていたジムで全日本チャンピオンに「パワーリフティングの才能がある」と声をかけられたのがきっかけで、2002年、23歳で初めて大会に出場した。その言葉通り、35歳と39歳の時にはベンチプレスの日本記録を更新。40歳の2019年には全日本パワーリフティング大会120キロ級で優勝、世界大会でも16位を獲得した。

「自衛官としても常に体を鍛えておきたい」とトレーニングに打ち込む柴田2曹は、「現在44歳ですが大きなけがもなく、再び日本記録を更新することを目標に大会への出場を続けています。9月に北海道でアジアベンチプレス大会が開催されるので、ぜひメダルを獲得したいです」と意気込んだ。

静岡地本は、今後も隊員の余暇活動の充実を図っていく。



自衛隊に入隊する若者を盛大に見送り



「頑張って」「いいっつらっしゅい」と声を上げながら手を振り、中には入隊者の名前が入った大きな横断幕を広げて力いっぱい送り出す恩師や友人の姿もあった。

入隊者たちは、北は北海道、南は鹿児島にある各教育隊に入隊し、一人前の自衛官を目指して訓練に臨む。

静岡地本は、今後も入隊者のサポートを行い、家族や地域との懸け橋として努めていく。

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・武田恭一 1等空佐）は3月27日（月）から4月1日（土）まで、本部庁舎（静岡市）をはじめ県内各地で入隊者の見送り行事を行った。

これは、陸・海・空自衛隊に入隊するため各駐屯地や基地に出発する若者を、家族や地方協力本部の隊員などが見送るもの。

会場には緊張した面持ちの入隊者と、しばしの別れを惜しむ家族や友人、学校の恩師などが集まった。

本部庁舎前で行われた見送り行事では、整列した入隊者たちに武田本部長が「同期と支え合って自らの適応能力を信じて頑張ってもらい」と激励の言葉を送った。

